

平成 16 年 2 月 10 日 ブリーフィング質疑応答

以下は、平成 16 年 2 月 10 日におこなったブリーフィングにおける弊社社長 細谷 英二と記者の皆様との主な質疑応答です。

【質疑応答】

Q . 海外 I R で、これまでの銀行にない取組みが評価されたということだが、例えばどのようなものがあげられるか。

A . この 7 ヶ月間の財務改革と不良債権処理です。特に D C F を中心とした引当、キャッシュフローベースで銀行経営を考えているということです。それから、私が金融庁に対してきちんとものを言って経営をやっている姿勢についても一定の評価をしていただいたのではないかと考えています。

Q . システム障害の説明のなかで、1 年後にシステム統合されるとありましたが。

A . 段階的になりますが、来年の 4 月から C A P に片寄せするシステムとなります。

Q . 休眠口座管理手数料について、既存の口座には適用しないということであるが、既存口座はどれぐらいあるのか。

A . りそな銀行と埼玉りそな銀行の合算で 1,800 万口座ございますが、約 3 分の 1 程度が休眠口座になっております。

Q . その 3 分の 1 の休眠口座には何もしないのか。

A . 弁護士等ともいろいろと議論させていただきましたが、口座管理手数料を頂戴できるような約定にはなっていないので、困難だろうという見解でした。これにつきましては将来の課題ということでもあります。

Q . 睡眠口座に係る年間のコストは。コストダウンの効果はどの程度見込めるのか。

A . 睡眠口座が累積していけば、大量の口座数を前提にシステムを構築しなければなりません。新生銀行のシステムが画期的にローコストで構築されているということで、八城社長に話を聞きに行きましたが、口座数が少ないことがローコストでシステムを構築できている要因だということです。メガバンクやりそな規模の口座数では、画期的にコストダウンしたシステムの構築は難しいということです。しかし、その状態を放置し、膨大な口座数を管理することは将来のコストアップの要因になるので、少しでも改善の努力を積み上げていくことが重要であると考え、今回、お客さまにこのようなお願いをしたいということです。

Q . 減資についてはもともと計画されていたのか。

A . 中間決算時点で、できるだけ早い段階で実施したいと思っていました。ただ、認可事項でもあり、金融庁と事前に打ち合わせし、年度内に実施したいという考えに理解を示していただきました。

Q . 金融庁の理解は得ているのか。

A . 得ております。内閣総理大臣の認可が必要な事項です。来週には臨時株主総会を開いて手続に入りたいと思っております。債権者にご通知をし、反対の方がいないということを確認したうえで、3月に実施する予定です。

Q . りそな総合口座「TIMO」について、通帳廃止によるコストダウンで手数料無料等によるコストアップは吸収できるのか。

A . 全面的に無通帳化すれば大幅なコストダウンになりますが、有通帳のサービスが並存している限りは目に見えるコストダウン効果はほとんどないと思います。しかし、お客さまにとって利用していただきやすい銀行になるという意味では宣伝効果があると考えています。

以上